



特集

—脊椎・脊髄専門医が語る—

体の大黒柱 “脊椎” (せきつい)

- 医心伝心～医の最前線から～
- ナース・フェイス 私の看護、私の思い
- VOICE 医療連携の現場
- シリーズ 清恵会三宝病院
療養型病床における患者様へのリハビリテーションについて
- 学院だより
地域医療の未来を支える若き力
- 気軽にお体メンテナンス
早期のチェックで病気にチャック!
- 清恵会グループ通信
禁煙をお考えの方へ禁煙外来のご案内

手足のマヒや歩行障害も…
脊椎・脊髄の疾患に要注意

脊椎は、頭部と四肢をつなぐ骨格の中心です。その中の脊柱管という空洞内に、中枢神経系の二つで感覚や運動の指令や反射機能をつかさどる脊髄が通っています。つまり脊椎と脊髄は、全身の神経を支える重要な部位です。

脊椎・脊髄は体の中心にあるため、障害や疾患が起こりにくいように感じます。しかし、坂中秀樹先生は、「高齢化社会を迎え、最近では脊椎疾患が非常に増えています」と語ります。

「例えば、腰部脊柱管狭窄症は、脊椎・脊髄外科でも多くみられる疾患です。これは、腰の脊柱管が何らかの原因で狭くなり、神経を圧迫して痛みなどの症状を発生します。主に加齢による体の変化によって脊柱管が狭くなることで多く、70歳以上の高齢者に増えている疾患です。頸椎性脊髄症も同様の傾向があります。ともに、高齢化社会の進行を考えると今後とも増えると考えられます」

腰部脊柱管狭窄症は、先天的に脊柱管が狭い人にも起こりますが、老化など後天的な原因で起こ

る場合が大半です。症状としては、下肢に放散するような痛みやしびれがあります。悪化すると、膀胱（ぼうこう）や直腸の機能が阻害され、排尿や排便などに支障が出る膀胱直腸障害を発症する場合もあります。

「最も特徴的な症状は、歩行距離が短くなり、かがんで休まないとい再び歩くことができなくなる間欠性跛行（かんけつせいはこう）です。頸椎性脊髄症は、脊椎の中で首の部分にあたる頸椎内の脊髄が圧迫されて起こります。頸椎性脊髄症になると、手がしびれる、手で細かい作業がしにくいといった症



その症状、脊椎・脊髄の疾患が原因かも？

腰痛に加え、下肢に放散する痛みを伴う

▶ 腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症

少し歩いたらかがんで休まないと再び歩けない

▶ 腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症

肩や上肢に放散する痛みや手のしびれがある

▶ 頸椎性神経根症、頸椎椎間板ヘルニア

歩きにくい、階段を降りる際に手すりが必要

▶ 頸椎性脊髄症、脊髄腫瘍（しゅよう）、頸椎後縦靭帯骨化症、黄色靭帯骨化症

箸が使いにくい、ボタンが留めにくい

▶ 頸椎性脊髄症、頸椎後縦靭帯骨化症

状のほか、筋力の低下も招くため、手を動かしにくくなったり、手すりがないと、歩くことや階段を降りるのが困難になります」

ほかにも、若い人やスポーツをする人に多いのが、脊椎の骨の間でクッションの役割を果たしている椎間板がはみ出て神経を圧迫する椎間板ヘルニアです。これも、脊椎・脊髄外科で非常に多くみられる疾患で、背骨のいずれの部位でも起こることがあり、痛みやしびれなどの症状があります。悪化すると、歩けなくなるほどの強い痛みを生じます。

また、運動で腰椎の骨に亀裂が

入り、腰痛を引き起こす腰椎分離症や腰椎分離すべり症、硬くなった脊椎の靭帯（じんたい）が神経を圧迫し、手足のしびれが出たり、手の細かい運動がしにくくなったりする頸椎後縦靭帯骨化症、足に同様の症状が出る黄色靭帯骨化症、脊髄の腫瘍などさまざまな疾患があります。

「脊椎の中でも、頸部の神経は中枢神経で、上肢から下肢にかけて症状が出ます。腰部の神経は末梢神経で、腰から下肢にかけて症状が出るという特徴があります。どちらにも、症状が重いと手術が必要ですが、軽症の場合は保存療

清恵会病院
 副院長 整形外科部長 **坂中 秀樹**

1985年、大阪市立大学医学部を卒業。同付属病院、独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院（現・関西ろうさい病院）、大阪府済生会中津病院などを経て、'99年から現職。2011年より副院長を兼務。日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会認定指導医、日本手外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医。中部日本整形外科災害外科学会評議員、日本骨折治療学会評議員、大阪市立大学大学院整形外科非常勤講師を務める。医学博士。

特集

シリーズ 大阪外傷マイクロサージャリーセンター

一脊椎・脊髄専門医が語る一 **“脊椎”**
 体の大黒柱 せきつい

体の中心を貫く脊椎（せきつい）は頭部から四肢への神経をつなぐ脊髄（せきずい）が通っており、まさに体の大黒柱といえる部分。今回は、清恵会病院の特色であるマイクロサージャリー（微小外科手術）を行う脊椎・脊髄外科（せきつい・せきずいげか）のお話と、脊椎・脊髄外科、手外科、スポーツ整形外科を統括する整形外科をご紹介します。

清恵会病院
 脊椎・脊髄外科部長 **北 輝夫**

1992年大阪市立大学医学部を卒業。大阪市立城北市民病院、大阪市立総合医療センター、大阪市立弘済院附属病院、大阪市立十三市民病院、独立行政法人労働者健康福祉機構美唄労災病院（現・北海道中央労災病院）、大阪府済生会中津病院などで勤務。2012年4月に脊椎・脊髄外科部長として清恵会病院へ赴任。日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会認定指導医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医。



超音波手術器「ソノペット (SONOPET)」
超音波で組織を切除する。骨を切除できるほか、ヘッドを交換すれば腫瘍など軟部組織の除去も可能。

法で治ります。腰部脊柱管狭窄症などはMRIを撮ればすぐに分かりますので、特徴的な症状が出てきた際は、早期に検査していただきたいと思いますね」

脊椎・脊髄の専門家として幅広い症例に対応する

「脊椎は、体の中枢を担う部位のため、独自の専門性が必要とされる分野です」と坂中先生は語ります。坂中先生は、脊椎脊髄外科医として経験を積む傍ら、患部を固定して骨や組織の再建を行うイリザロフ創外固定法について研



髄分野のマイクロサージャリーの術式で、実施には顕微鏡が必要で、また機器にも配慮しています。骨を削る際は、一般的にドリルで小さく削るエアードリルが多く用いられていますが、回転運動は血管や神経を巻き込む可能性があり、そのため、超音波で骨や組織を切除するソノペットという手術器も使用しています」

脊椎脊髄損傷などの外傷や腫瘍によって脊椎が破壊されているような場合は、インプラント(ロッドやスクリュー)を用いた脊柱の再建、固定も行っています。北先生は、手術だけに頼らない柔軟な対応を心がけていると語ります。「手術だけでなく、症状や患者様

究をしてきました。また、脊椎・脊髄についての高度な知識と手術のスキルを持つ日本脊椎脊髄病学会認定指導医であり、清恵会病院に赴任してからは、永く整形外科部長と脊椎・脊髄外科部長を兼任。整形外科全般に渡る手術に加え、現在も年間約80例の脊椎・脊髄手術を手がけています。

「診断の遅れが取り返しづかぬ状態を招きますし、神経は手術の具合が身体の機能や痛みを除去に大きく影響を与えます。そのため、手術には高度な技術が求められるので、医師として日頃の研鑽が重要だと考えています」

今年4月に脊椎・脊髄外科部長に就任したのが北輝夫先生です。これまでに整形外科の幅広い症例を経験し、坂中先生と同じく脊椎・脊髄やスポーツ整形の分野にも精通しています。

「脊椎・脊髄の分野では、脊椎に病変があっても症状が上肢や下肢に現れることや、腰痛や背部痛などに、脊椎ではなく腎臓や肺など内臓が原因の場合もあります。また、脊椎の疾患が悪性(命に関わる)か、良性(命に関わらない)かによって、治療は大きく異なります。従って、診断を正確に行い、治療を選

の要望に応じた治療を行っています。診断後には、いくつかの治療方法を提示していますので、患者様やご家族にとって納得のできる治療を受けていただくことができます」と思っています」

各専門医が揃い、年間約1200件の豊富な手術を実施する整形外科

坂中先生は、脊椎・脊髄だけでなく、整形外科の診療全体を統括しています。清恵会病院の整形外科は、現在、12名のスタッフ体制で診療にあたっており、脊椎・脊髄外科をはじめスポーツ整形外科(ふれあい3号)、手外科(ふれあい7号)と、各分野の専門医が治療を行っています。また、救急部門として、手の微小血管外科手術を専門とする「ふれあい8号」の大阪外傷マイクロサージャリーセンターを設置しているほか、ER(救急救命室)では、整形外科の全スタッフが交代で治療を行っています。

「骨折などの外傷に関しては、部門というよりは症状への対応という形です。治療は、主に上肢が手外科の寺浦英俊先生、下肢が私の担当です。私は、骨や組織を伸ばし、再建するイリザロフ創外固定法と



片側進入両側除圧術
脊椎の片側から手術器を入れ、神経を圧迫する部分を両側から排除するため、骨や組織への傷が少ない。

択することが大切です。特に腫瘍や感染の場合は、診断や治療の遅れが生命に関わったり、治療期間が長くなったり、重篤な機能障害を引き起こすことがあります。そのため、症状がある場合は自己判断せずに、専門医のいる病院で診療を受けて欲しいと思います」

マイクロサージャリーが90%以上を占める脊椎・脊髄外科

清恵会病院の脊椎・脊髄外科は、坂中先生、北先生、高山和土先生、研修医の4名体制で診療と手術を行っています。手術実績は、2011年度の1200件のように、例年、約1200件余りに上り

マイクロサージャリーを行っています。この二つの治療法を使い分けている医療施設は少なく、他の病院からは難しい症例の対応も依頼されています」

患者様は、主に清恵会グループの専門外来施設である三国丘クリニックのほか、他の病院・医院からも数多くの紹介を受け入れており、整形外科全体では、年間約1200件の手術を行っています。

「整形外科は、24時間緊急手術に対応できる体制を整えていますし、予定手術もあるので各医師の手術実績は高いと思います。そのため、同じ手術でも当院のレベルは高いと自負していますし、治療体制は大学病院並みだと思えます。患者様には、安心して治療を受けていただきたいですね」

整形外科では、研修医の受け入れも積極的にを行っています。例年、10名弱の研修医を受け入れており、現在は、初期研修医(1〜2年目)3名、後期研修医(3〜6年目)5名の8名が研修中です。研修医は、整形外科の中で、脊椎・脊髄外科、手外科、スポーツ整形外科をローテーションで担当し、各専門医の指導のもと、医師としての知

ます。手術の特徴は、マイクロサージャリーにあります。

マイクロサージャリーは、微小外科手術、小侵襲外科手術とも呼ばれており、「ふれあい8号」でも紹介したように、顕微鏡を使って非常に小さな術野で手術を行うため、患者様の身体に与える負担や影響を抑え、早期の回復を図ることができます。脊椎・脊髄外科では、手術の90%をマイクロサージャリーで行っています。

「脊椎・脊髄の部位は、微小な神経が集中した繊細な場所なので、手術では、患者様に負担をかけることを最も重視しています」と坂中先生は語ります。例えば、腰部脊柱管狭窄症や腰椎すべり症の手術では、神経を圧迫する靱帯や骨を削って、取り除く必要があります。この際に、十分に圧迫を取り除き、削る部分を最小限に留める片側進入両側除圧術を行っています。また、片側椎弓切除による脊髄腫瘍の摘出、頸椎椎間板ヘルニアの後方摘出手術など、繊細な手技が必要とされる手術を行っています。

「これらはすべて、骨や筋肉を切除したり、切開したりする部分を小さく留めることができる脊椎・脊髄とスキルを学んでいます。」「若い医師を育てることも大事だと考えています。整形外科には専門医が多く、複数の専門領域を持つ医師もいます。また、外傷は当院に在籍している期間にすべての症例を経験できるように担当を割り振っています。若い医師には、できるだけ幅広い分野に触れて経験を積み、自分の専門分野を見つけて欲しいと思います」

整形外科各部門の主なスタッフ

- 整形外科 部長 坂中 秀樹 医師
医学博士、大阪市立大学大学院整形外科非常勤講師、日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会認定指導医、日本手外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医
- 大阪外傷マイクロサージャリーセンター センター長 五谷 寛之 医師
医学博士、大阪市立大学整形外科臨床教授、日本整形外科学会専門医、日本手外科学会専門医
- 脊椎 脊髄外科 部長 北 輝夫 医師
日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会認定指導医、日本整形外科学会認定スポーツ医
- 手外科 部長 寺浦 英俊 医師
日本整形外科学会専門医、日本手外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定リウマチ医
- スポーツ整形外科 部長 小松 猛 医師
医学博士、日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本体育協会公認スポーツクター

Nurse Face ナース・フェイス —私の看護、私の思い—

MY テーマ **笑顔絶やさず、患者様やご家族との交流を通じて成長していく**

病棟で働く私の仕事

中2階病棟のICU(集中治療室)と一般病室の患者様に対する治療や入院生活の補助を行っています。ICUには重症患者様が多いため、患者様やご家族との触れ合いはすごく重要です。患者様やご家族との関わりから学ぶことは多く、毎日の体験を大切にしたいと考えています。だからこそ、重症患者様が回復し、退院されるときのうれしそうなお顔を見たときには、仕事のやりがいを強く感じます。



清恵会病院 中2階病棟
丹下 早織さん

Profile
2011年4月入職。「今の目標は、基礎がしっかりした看護師になること。人としても学び、自分の土台を固めたいと思います」

看護に対する私の思い

私は、看護師になって2年目です。まだまだ人に胸を張れるような強みはありませんが、唯一、得意と言えるのは笑顔ですね。普段の業務の間も、患者様に安心していただけるように、またコミュニケーションが取りやすいように、笑顔絶やさないことを意識しています。もちろん、言葉遣いや表情にも注意しています。今は、自分なりに悩み、考えながら、日々少しずつでも成長したいと思っています。

MY テーマ **周囲への配慮を忘れず、一つひとつの仕事を徹底する**



清恵会病院 外来
間口 幸司さん

Profile
2009年2月入職。「看護とは何かを少しでも深く理解できるように、日々学び、成長していきたいと考えています」

外来で働く私の仕事

准看護師として、外来診療の介助のほか、内視鏡や放射線科の検査介助を担当しています。外来の患者様は、病棟と違って初診の方や月に数度お会いする方が大半です。頻りに患者様とお会いするわけではないので、次回の診療予約日にあたって、指示漏れの根絶など一つひとつの業務確認を徹底しています。また検査の介助では、患者様の不安や緊張を少しでも除去できるように努めています。

看護に対する私の思い

看護は、患者様をはじめ多くの人々と触れ合う機会が多く、感激や喜びなどいろいろな体験ができる仕事だと実感します。また、数少ない男性看護師の立場から、他の看護師やスタッフへの気遣いや配慮を忘れないように心がけています。もちろん、最も大切なのは患者様の健康を守ること。そのため、一日の業務を無事に終了することができた瞬間は、私にとっての仕事の喜びになっています。



清恵会病院 小児科部長 東川 幸嗣

Profile
1963年生まれ。'88年大阪医科大学を卒業後、済生会吹田病院で勤務。大阪医科大学大学院で博士号を取得する。済生会茨木病院、八尾徳洲会総合病院などを経て、2006年より現職。日本小児科学会専門医、日本小児科学会指導医。日本小児神経学会、日本小児感染症学会に所属。

医伝心 #09 ~医の最前線から~

高度な専門診療と柔軟な対応で、
地域の子どもたちの成長と
発達を支えていく。

子どもが好きで、 小児科医の道を選択

当院の小児科はスタッフが充実しており、小児神経と小児感染症が専門の私とアレルギーや発達障害などの各専門医4名、大阪医科大学関連の施設から派遣されている当直医師が働いています。月曜から金曜までの毎日午後12時から外来を開設しているほか、小児救急も積極的に受け入れてもらっています。また、近年、関心が高まっている発達障害をはじめ、さまざまな問い合わせや相談にも柔軟かつ細やかに対応していますので、ご相談いただけたらと思います。

「遊びをせんとや生まれけむ」
(※)とはいますが、子どもは、肺炎や腸炎といった病気こそ、よくかかるものの、大人のように命に関わる病気にかかることはどちらかというと少ないです。しかし、中には、まれな疾病の初発症状を有しているかもしれません。そのため、常に新しい情報を得るための努力をしなければならぬと考えています。

リラックス方法も、 子どもと触れ合うこと

私のリラックス方法も子どもで、家ではいつも3歳になる娘と遊んでいます。本当にかわい盛りで、むしろ私が遊んでもらっているという方が正しいかもしれません(笑)。趣味は、主にスポーツです。中学・高校時代は柔道に取り組み、大人になってから空手道場に通って黒帯を取りました。ランニングも趣味の一つで、週に3、4日は病院の近辺を走っています。

私は元々、子どもが好きで小児科医を目指しました。すでに20数年の臨床経験がありますが、新しい命をサポートし、子どもたちが日々、成長・発達を遂げていく姿を目の当たりにする喜びは、ずっと変わりません。医師としてご両親や子どもから頼られ、求められているという実感があるので、来院していただいております。

部長という立場上、小児科外来や病棟の管理も行っており、若い人たちへの小言も多くなってきたかもしれませんが、より良い小児科とするために、小さな問題でも一つひとつ解決していきたいと考えています。

(※) 平安時代末期の歌謡集『梁塵秘抄』(りょうじんひしやう)に収められている有名な和歌の冒頭。夢中で遊んでいる子供の声を愛おしく感じる心情を含め、歌の趣旨にはさまざまな解釈がなされています。





清恵会三寶病院は、240床の医療療養型病床を設置しています。当病床では、リハビリテーションスタッフ（理学療法士14名、作業療法士12名、言語聴覚士5名）が回復期リハビリテーション病棟と兼務で、患者様のリハビリテーション（以下リハビリ）を行っています。昨年度の実績として、年間235名への新規のリハビリ処方があり、必要な方には基本動作練習を行う理学療法、応用動作練習を行う作業療法、言語・嚥下（えんげ）練習を行う言語療法といった総合的なりハビリを実施致しました。

現在、療養型病床でリハビリを実施している患者様には、透析が必要な方、自宅療養が難しく急性期病院から引き続き医学的管理（気管切開等の呼吸管理や胃ろう、腸ろうといった栄養管理等）が必要な方、回復期リハビリテーション病棟の入院要件に満たなかった方など、さまざまな方がおられます。疾病や障害の重症度もさまざまです。ご自宅に帰ることを目的とされる方、施設に帰ることを目的とされる方、病院での入院を継続される方など、多様な目的を持って入院されています。こうした状況でのリハビリは、画一的なものではなく、それぞれの患者様の今後の生活を見すえた中で行う必要があります。当院の療養型病床では、原則的に入院から1ヶ月の時点で医師、看護

今後の生活を見すえた総合的なりハビリを提供

療養型病床における患者様へのリハビリテーションについて

シリーズ 09
清恵会三寶病院



師、医療福祉相談員、リハビリテーションスタッフが集まり、一人ひとりの療養患者様についてのケースカンファレンスを行い、療養の現状報告や今後のリハビリの方針・目標設定を行っています。また、毎日、看護師と申し送りを行っており、日々の体調変化にも対応したリハビリを実施できるように努めています。さらに、1ヶ月ごとに「リハビリ実施計画書」を作成し、患者様の改善度を確認しながら、その時々状態に応じたリハビリを提供しています。

退院前には、必要な方を対象に、担当のリハビリテーションスタッフが自宅を訪問して、患者様に住居内を移動していただく生活動作の確認を行うほか、住宅の設計・設備に合った介助方法の指導や住宅改修の助言等も行っていきます。

今後も、療養中だけでなく患者様の退院後の生活に即したリハビリを実施するために、医師、看護師、介護職と連携して、リハビリの質の向上を図っていきたくと考えています。

（清恵会三寶病院 理学療法士・中西信敬）

VOICE 医療連携の現場

清恵会の特色である、医療連携の現場を皆様にお伝えします。

Vol.4 大腿骨頸部骨折の患者様に対する治療の地域連携パス体制

高齢になってくると、転倒などちょっとしたことで太ももの付け根の関節(大腿骨頸部)を骨折するケースが増えてきます。大腿骨頸部骨折における地域連携パスとは、急性期機能病院で骨折の入院治療を受け、回復期リハビリテーション病棟のある病院へ転院して集中的にリハビリを行い、早期に在宅復帰(退院)するまでの治療計画のことです。地域の医療機関が協力し合い、各病院の特性と役割を活かしながら、患者様の「治療(手術)～リハビリ～退院」までのプランを作るシステムです。



NAVIGATOR
清恵会病院
医療福祉相談室
室長代理
岡林 良男

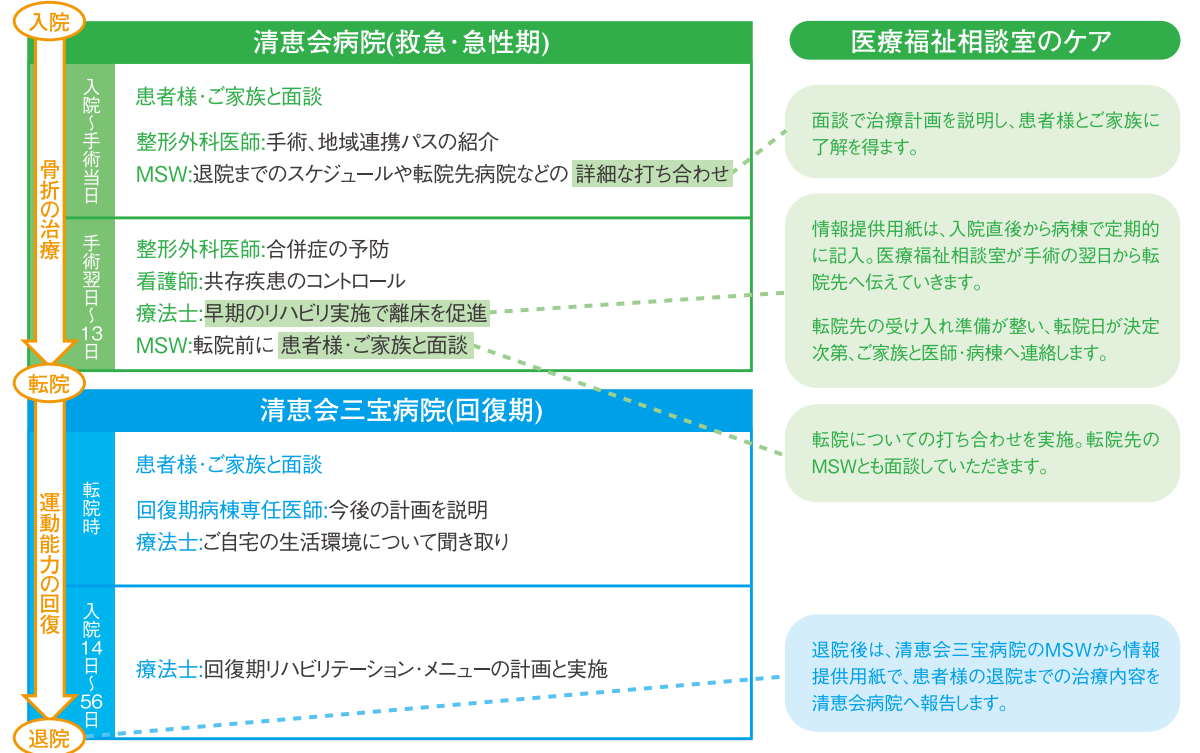
地域連携情報提供用紙

清恵会病院を含む堺市の主要12病院が作成した連携パス専用用紙です。病院スタッフが治療計画と処置の内容、薬剤の明細、身長・体重等のほか、ご自宅の浴室・トイレ・階段などの住環境も記入し、退院後の生活までを視野に入れた患者様の情報を病院間で共有します。



骨折での入院から自宅復帰までの流れ

医療福祉相談室は患者様の相談窓口であり、地域連携パスにおいては他の医療機関への窓口となります。医療福祉相談室では、医療ソーシャルワーカー(MSW)が正確な情報と細やかな連絡で円滑な治療計画の進行を支えています。清恵会グループの二つの病院を例に、治療の流れを見てみましょう。



今回のまとめ



転院は、早期回復のために適切な病院で治療を受けていただくのが目的で、決してネガティブなことではありません。当グループでは、手術後からの早期のリハビリをお勧めしており、病院間の詳細な情報交換によって患者様に合ったリハビリを継続して行っています。
※患者様の病状により、地域連携パスの適応外となる場合もあります。

学院だより

地域医療の未来を支える若き力

清恵会医療専門学院
清恵会第二医療専門学院

幅広い教養と気づきを深める！ 文楽鑑賞教室に参加しました

6月9日、国立文楽劇場で
行われた文楽鑑賞教室に、准
看護学科33期生と第2看護学

科37期生が参加しました。
文楽鑑賞では、大夫の語り
と三味線の力強い音色が、人



形の感情を表現するよう奏で
られていた中、三人遣いで巧
みに動く一体の人形の様は、
そこに生きた人がいるようつ
で。その統一感あふれる技
と表現力に、学生は強く引き
込まれている様子でした。
鑑賞後は、学生が舞台上に
がり、人形の三人遣いを体験
しました。動きの連動やタイ
ミングの難しさに苦労する中
で、チームワークの大切さを
つかんでいたようです。
今回の文楽鑑賞教室への参
加は、教養や感性を深めるこ
とを目的としていました。実
際に、日本の伝統文化には心
に深く訴えかけるものがあり
、看護に通じるチームワー
クも含め、多くを学ぶことが
できた一日となりました。
今後も両学院では、さまざま
な行事を通じて、学生生活
と人間教育の充実に力を入れ
ていきたいと考えています。

早期のチェックで
病気にチェック!

気軽に体メンテナンス

第九回 血圧脈波検査

(ABI/TBI/PWV)

血管の状態や詰まり状態を確認

何を調べる検査ですか？

血圧脈波検査は、四肢の血圧を測定する検査で、血管のしなやかさと詰まり具合が分かります。主に、動脈硬化の進行度合い(下肢動脈の狭窄・閉塞性疾患)を調べる検査として用いられ、糖尿病・透析患者様の閉塞性動脈硬化症の診断のほか、パージャール病・膠原病(こうげんびょう)などを抱える患者様の慢性動脈硬化疾患も診断することが出来ます。

検査の方法、流れは？

検査を受ける際は、まず両腕、両足首、両足の親指に血圧を測定するカフを装着していただき、さらに心電図、心音図の電極を付けてベッドでしばらく安静にしてください。

両手、両足首の血圧を同時に測ることにより、血管の硬さや詰まり



具合が分かります(ABI/PWVの検査)。動脈閉塞や狭窄が疑われる場合は、このABI/PWVを行います。また、長期糖尿病や維持透析例では、足関節より中枢の動脈石灰化が著しいため、足の指の血管を調べ、閉塞性病変の存在を測定します(TBIの検査)。

検査にあたっての注意点は？

透析に必要な血管のシャントをされている透析患者様など、腕を締め付けることができない場合は、影響のない方の腕のみで測定します。検査前にお知らせください。

検査所要時間は？

所要時間は15分程です。痛みや運動を伴う検査ではありませんので、安心して臨んでください。
(清恵会病院・検査科)

清恵会グループ通信 清恵会三国丘クリニックからのご案内

禁煙をお考えの方へ 禁煙外来のご案内

清恵会三国丘クリニックでは、2012年6月から禁煙外来を開設しております。禁煙ができませんで悩んでおられる方は、一度、受診してみませんか？

※一定の条件を満たしていれば、禁煙指導や禁煙補助剤の処方に健康保険が適用されます。

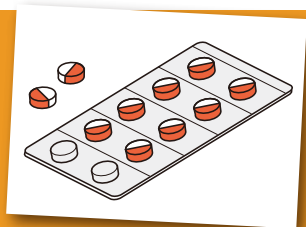


診察日
第2、第4土曜日
午前中

※予約制です。詳細については、下記の代表番号を通じて、クリニックへお問い合わせください。

喫煙には、さまざまな害があることはご存知だと思います。がん、呼吸器系の病気、動脈硬化、白内障など健康に及ぼす影響はいうまでもなく、その他、自分や家族に与える害は数え切れないほどあります。「分かっているけどやめられない」「禁煙が続かない」という方は多いでしょう。自分のために、家族のために、少しでも禁煙に興味のある方は、お気軽にご相談下さい。禁煙に成功して、健康的な生活を送っていただきたいと思ひます。

認定内科医、日本呼吸器学会 呼吸器専門医 今西 将史



お問い合わせ

清恵会三国丘クリニック

電話 072-251-8199 (代)

8:30~16:00(月~金)、8:30~11:30(土)

2013年度新入生を募集!

清恵会医療専門学院、清恵会第二医療専門学院では、2013年度入学試験を上記日程で行います。未来の医療現場を支えるたくさんの方々のご応募をお待ちしています。



詳しくは
WEB&携帯で



<http://gakuin.seikeikai.or.jp>

清恵会グループのご紹介

+ 清恵会病院

急性期機能病院

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁2番10号
TEL.072-251-8199(代)

+ 清恵会向陵クリニック

人工腎臓透析センター

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁2番11号
TEL.072-251-8199(代)

+ 清恵会訪問看護ステーション

訪問看護・訪問リハビリステーション

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁4番4号
TEL.072-257-6074

+ 清恵会医療専門学院

看護師・准看護師養成校

〒591-8031 堺市北区百舌鳥梅北町2丁83番地
TEL.072-259-3901

+ 清恵会本部

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁4番4号
TEL.072-251-8199(代)

+ 清恵会三宝病院

複合型慢性期機能病院

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁4番1号
TEL.072-226-8131(代)

+ 清恵会三国丘クリニック

内科・整形外科・リハビリテーション科

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁4番10号
TEL.072-251-8199(代)

+ さんさんデイケア三宝

通所リハビリテーション

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁4番1号
TEL.072-225-0066

+ 清恵会第二医療専門学院

理学療法士・診療放射線技師養成校

〒590-0026 堺市堺区向陵西町4丁5番9号
TEL.072-222-6226

+ ケアプラス(照恵商事株式会社)

居宅介護支援・訪問介護・福祉用具貸与

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁6番25号神田ビル2階
TEL.072-259-4622

清恵会グループWebサイト更新情報

糖尿病情報コーナー、広報誌「ふれあい」閲覧コーナー、看護部サイトをはじめ、清恵会グループWebサイトには、役立つ情報が満載。下記よりご覧ください。



糖尿病情報コーナー



看護部サイト



耳より情報

清恵会

検索

<http://www.seikeikai.or.jp>